



【幼児教育】

幼児教育分野における派遣隊員支援と
幼児教育協力の質的向上

浜野 隆

(お茶の水女子大学)

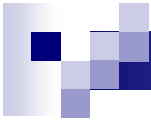


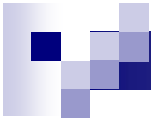
1. 幼児教育分野の青年海外協力隊

- 要請は多いが、派遣が追いつかない分野
- 現職派遣はさらに困難
- その理由
 - ①公立幼稚園が少ない(幼稚園は6割が私立)。
 - ②公立幼稚園教員の年齢(平均年齢42.2歳)
 - ③幼稚園の財政(国庫負担のある義務教育とは違い、どこもぎりぎりでやっている)
 - ④人員の配置:臨時職員が多く、常勤職員がJOCVとして出にくい。学級担任(1学級に1人の先生)
 - ⑤帰国後、開発教育という形で社会還元しにくい(隊員経験が評価される場面が少ない):「重要性はわかるんですが・・・現場は目先のことで手一杯」















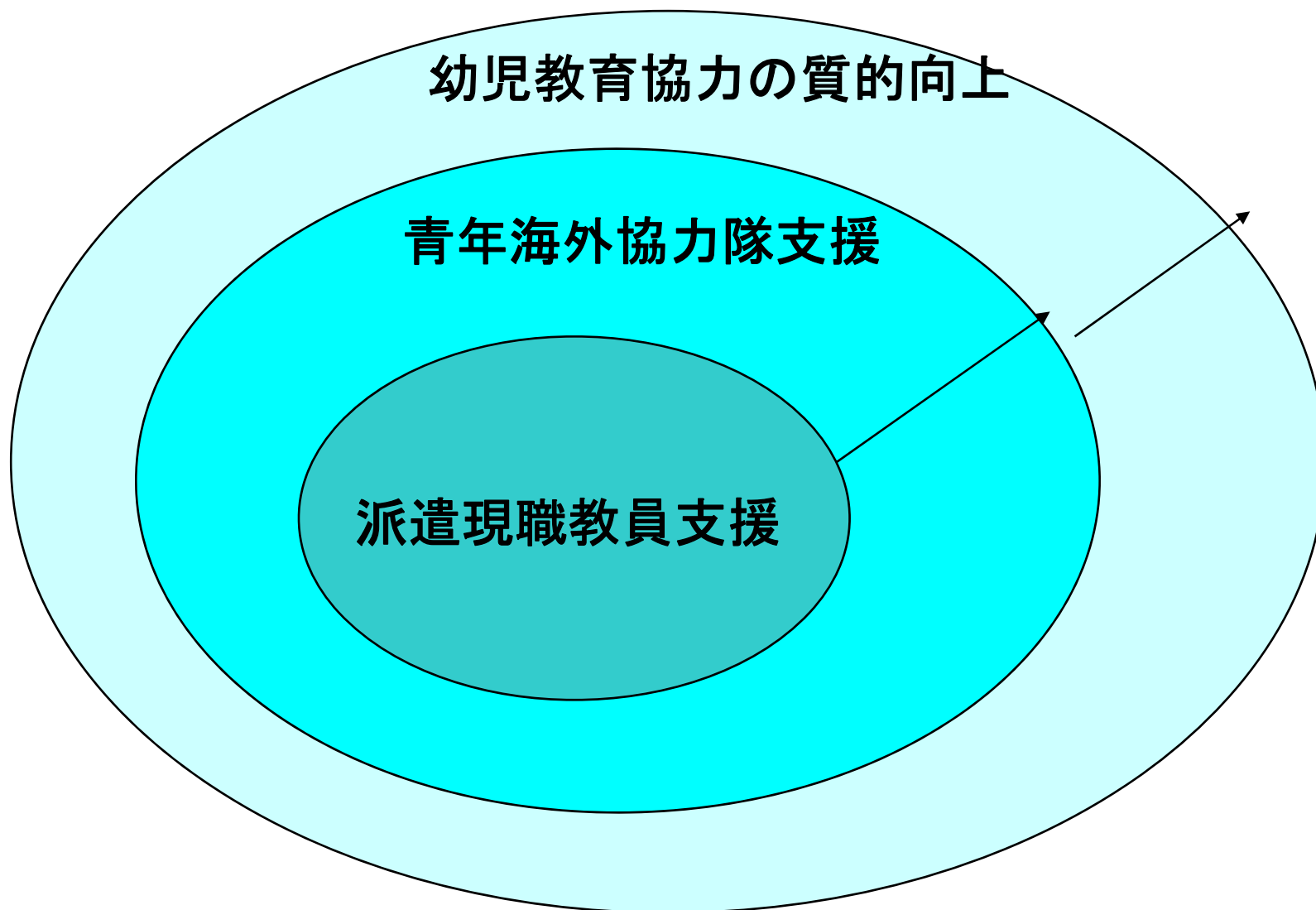




2. 本事業の目的・方法

- 1. 協力隊活動広報・調査
- 2. お悩み相談：派遣前、派遣中、帰国後
（メールでの相談、Q&A集の作成）
- 3. 教材・資料の作成・配布
（ハンドブックの多言語翻訳、ビデオ、国際
動向パンフ、活動評価ツール）

活動テーマ:「幼児教育分野における派遣隊員支援と
幼児教育協力の質的向上」





3. 今年度の活動・成果

- (1) 広報・調査活動
- 昨年度に続き、公立幼稚園・私立幼稚園調査に対する広報活動の継続。
- 私立幼稚園関係者に対する理解を深めるために、雑誌「私幼時報」に青年海外協力隊の活動を紹介。
- 青年海外協力隊の広報紙 [JOCV news] に本事業の紹介を掲載し、その内容を国内幼児教育関係者にも配布。
- アンケート調査等を通じ、保育者養成機関、保育所への広報を開始した。



(2) 幼児教育協力の国際動向に関する情報集約・提供

- 幼児教育ネットワークの帰国隊員や派遣中の隊員らとの意見交換から、国際動向パンフレット作成にあたっては以下の点の重要性が明らかに：
 - ①国際社会の開発課題とECD支援との接点を明らかにすること、
 - ②教育分野に焦点を絞り込まないこと、
 - ③途上国の乳幼児を取り巻く状況をマクロな視点から理解する重要性に言及し、そのための基本的知識や情報源を提供すること。
- 「EFAグローバルモニタリングレポート2007年版」フルレポートの翻訳について、ユネスコと協議の上、翻訳に関する許諾を得、現在翻訳が進行中。



(3) 派遣候補生および派遣中隊員への直接的助言

- 「幼児教育ハンドブック」は、各訓練所からのリクエストに応じて送付し、候補生たちに配布されている。
- 現在は「幼児教育ハンドブック[2]幼児教育協力Q&A」の作成が進行中。
- 前年度に引き続き、現在派遣されている隊員から質問を集約し、回答できるものについては回答を送付。
- 隊員の広域研修への助言、本学が実施している地域別研修(中西部アフリカ幼児教育)への候補生の参加を通じて、派遣前情報の入手、派遣先スタッフとのネットワーク作りを支援。
- 「幼児教育ハンドブック」の多言語化を進め、翻訳済み部分については即時、隊員メーリングリストに送信している。



4. 派遣中隊員がかかえる悩み

- 1. 任国の教育事情
- 2. 文化の違い
- 3. 要請に関する問題
- 4. JOCVに対する理解が乏しい
- 5. CP(カウンターパート)との関係
- 6. 活動の内容・方向性について
- 7. 語学・コミュニケーションの問題

- 
- 1. 私には、特定のカウンターパートがいないのですが、活動に際してどのような点に留意したらいいでしょうか。
 - 2. 任国の教育に対してどこまで日本的な考えが良いのか、必要なのかわりません。子ども中心主義の伝達をすべきかどうか、判断する方法を教えてください。
 - 3. 任国には任国の保育の型があり、その国式の保育にどこまで手を入れていいかわかりません。活動の方向性を決めるいい方法はあるでしょうか。
 - 4. 現在の活動は、個に対してアプローチしている状況なので、広がりには欠けると感じています。「点」に対する活動を「面」に広げていくにはどのようにしたらいいでしょうか。
 - 5. 配属先のJOCVに対する理解が乏しくて困っています。すでに赴任して10ヶ月になりますが、いまだに自分の配属先で私の位置づけをきちんと決められていません。相談できる現地の相手もいません。どうしたらいいでしょうか。

- 
- 6. カウンターパートや指導主事が忙しく、時間が合わないため十分なコミュニケーションの時間が取れません。そのため、講習会の準備などにも支障をきたすことがあります。何かいい方法はないでしょうか。
 - 7. 国民性の相違かもしれませんが、私の任国では、部下や上司の許可なしに仕事ができず、自主的な仕事が考えられません。指導主事が絶対的な権威をもっており、間違っているといえない雰囲気があります。私はときどき自分の思ったとおりのことを言ってしまうのですが、耳を傾けてもらえません。
 - 8. 要請内容と現場のニーズが結びつきません。現場での需要がわかりません。そのため、活動の方向性が見えなくて困っています。どのように活動の方向性を見つけていったらいいでしょうか。
 - 9. 語学力の問題もありますが、相手とのコミュニケーションが難しいといつも感じます。そのため、信頼関係を築くことがうまくできていません。信頼関係を築くための何かいい方法はあるでしょうか。

- 
- 10. 自分が担当しているエリアの規模が大きすぎるので広く浅い活動になってしまうのではないかと不安を感じます。どのような点に注意して活動したらいいのでしょうか。
 - 11. 巡回先が多く各園との深いかわりがなかなか難しいと感じます。どのような点に注意して活動したらいいのでしょうか。
 - 12. 任国の人を受身(時には怠け者)で困っています。なかなか指導主事自身で物事を企画したり提案しても、私にやらせようというフシがみられます。現地の人々のやる気を引き出すいい方法はあるのでしょうか。
 - 13. 露骨に物質的要求をされます。うまくかわす方法を教えてください。
 - 14. 講習会を定期的にやっているのですが、その内容が浸透(定着)しにくいというのが悩みです。講習会を成功させるコツは何かありますでしょうか。
 - 15. 赴任先がお休みのバカンス中、どんな活動をしていいかわかりません。完全に休んでいる隊員の方もいますが、それでいいのかどうか疑問に思うときもあります。何かいいアドバイスがあればお願いします。

- 
- 16. ニーズがわからない
 - 17. 自分のやったことの効果が見えない(これまで何代も入って、何が変わったのか。実感が持てない)。
 - 18. 協力の効果をどう確認したらいいのか。
 - 19. 相手国の教育にどこまで介入していいのかわからない。
 - 20. 体罰やスパルタ式教育に疑問を感じるが、どうすべきか
 - 21. 任国の3歳児と日本の3歳児の発達の度合いは同じようなものと考えていいか？ 違うとしたらどれくらい違うのか？

- 
- 寄せられた多くの悩みは、
幼児教育分野のみならず、
他分野の隊員もかかえて
いる(であろう)問題



派遣中隊員ニーズ（まとめと対応）

- ①活動の方向性に関して第三者の立場、専門的な立場からのコメントがほしい
- →拠点での対応：（Q&A集やワークショップ　　プに参加してのコメント）
- ②派遣先のニーズを把握したり、活動の効果を確認したりするための調査手法
- →拠点での対応：（Q&A集や評価ツール作成）
- ③資料や教材が現地語になっていると良い
- →幼児教育ハンドブックの多言語翻訳



連絡先

- ご質問・お悩みはこちらまで
- hamano.takashi@ocha.ac.jp
- お茶の水女子大学・教材配布URL
- <http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~eccd/reports.html>
- ベトナム初等教育
- <http://www.ushiogi.com/viet-kaken.pdf>